

留学先国名 : カナダ

留学先学校名 : ランガラ・カレッジ

留学期間 : 平成 26 年 5 月 25 日 ~ 平成 28 年 8 月 6 日

ここにきてやっと、バンクーバーでの生活が安定し余裕がでてきたなと思います。“地に足がつく”ということを実感しながら生活できることが何よりも難しかった留学当初を考えると、何をするにも足取りや腰が軽くなったように感じます。以前に比べ、物事に対する価値観や考え方が少し変わったように思います。ここまでくる道のりはカーブや坂道もありましたが、今までと確実に見ていた景色が違うことに苦勞の報いを感じています。

大学生活では、今学期においては、フランス語、心理学、会計学、数学の 4 教科を履修しています。日本にいる人からすれば、たった 4 教科と思われるかもしれませんが、こちらでは基本的に 1 学期につき 3 教科履修するのが平均で無難とされています。実質授業時間は 1 科目、1 週間 4 時間から 6 時間と短いのですが、なんといっても日本との違いは宿題や提出課題、テストの数の多さです。そのため、学校が仮に 14 時ごろに終わっても、少なくともそこからトータルで 1 科目 3 時間ほどの宿題や自習が要され、毎日あるので、3 教科履修するのも大変という具合です。できるだけ早く単位を取りたいという考えから私は今回 4 教科を専攻しましたが、かなり過密で、こちらの生活には慣れてはきていたものの毎週末は学校の図書館に閉じこもって勉強しました。日本と違い、中間テストや期末テストの回数が多く、4 か月間に平均 3, 4 個のテストがあります。一見、範囲が少なく済むと思うかもしれませんが、進む速度が速いため全くそんなことはなく各教科のテストが立て続けにあると、その週の睡眠時間が仮眠といってもいい程短くなるのは当然でした。ここまで聞いていると、ただただ大変なように聞こえますが、それぞれ授業は内容が充実していて、工夫されているので、夢中になって授業に参加できます。こちらの授業はいわゆる“参加型”授業が多く講義型授業で生徒が 150 人ほどのクラスでもかならず生徒主体の進め方をしているため、自分が授業を進める 1 人の当事者であるという責任があるので、授業でも充実感があります。心理学の授業では、実際に先生が毎回テーマに合った実験を準備し、生徒が実験台となり実践します。そのため、ただただ実験結果を楽しむだけでなく、説明がより具体的となり親近感が持て、授業が必然的に記憶に残ります。フランス語の授業は毎回必ずペアワーク、グループワークがあり実際にフランス語を“実用する”ということが根本にありつつ、文法をはじめ基礎的なことを学ぶことも同時にできます。毎週リスニングテストがあり、先生がフランス語で話すことを空白の紙に書き写していくことでフランス語の音に身近に馴染むことができ、最終的には“聞く”力として身につけています。もちろんすべての授業は英語で行われるので、英語力は自然と確実に効果的に上がります。こういったわけで、学期中終始気を抜くことはできませんが、カナダにわざわざ来てまで、授業を受ける価値があるということを肌身で感じ、こういった機会に恵まれたことにも感謝しています。

家族から離れ自力で生活するといった点でも、日が経つごとに慣れてきました。炊事、買い物、洗濯、

なにかしらの契約、銀行に行くのも当たり前ですが、「ちょっと行ってきて。」や「手伝って。」という融通がきかないことが当初重荷でした。上記の勉強量に加えこれらの日常雑事をこなすのは慣れるまで少し時間が必要でした。自分がいかに家族を頼りにして生きてきたか、共働きの親は一言も文句も言わずこれらのことをこなしていたかということに気付く良いきっかけにもなりました。物理的な用事とともにしんどかったのは、責任の重さです。なにをするにも自分の責任だということを重んじる機会が家族からはなれ海外で過ごすことで増えたなと思います。大阪東京間ならまだ、「これってどうしたらいいの？」「これでもいい？」などと電話などですぐに確認が取れるし、なにかあればすぐに訪れることもまだ容易です。でもカナダに居る限り、とてつもない時差や距離のおかげでそう簡単に連絡は取れないので、家選びにしても契約書にサインするかもすべて自分次第。身近な人の見解を聞けないリスクだけでなく、そうしたからの責任も自分で取ることが責務です。何が正しいのか、この人は信用できるか、そういった知見をもち、時には批判的に他人を評価することも要します。

こういった視点からも明らかなように海外留学は語学にとどまらず、己の弱みや気づきをよりよく理解できる機会が多い気がします。今まで当たり前にあったことや人にありがたさを覚えさせてもらえる“学び”があるところに留学の魅力があることを改めて実感した年でした。これから留学を考えている人はきっと、その魅力をどこかで感じ取って留学に行きたいと思っています。私自身実体験したゆえにいえることは、その期待はほぼ確実に裏切らないと思います。でも同時に、逆境に耐えるための覚悟と受け皿は必修です。